

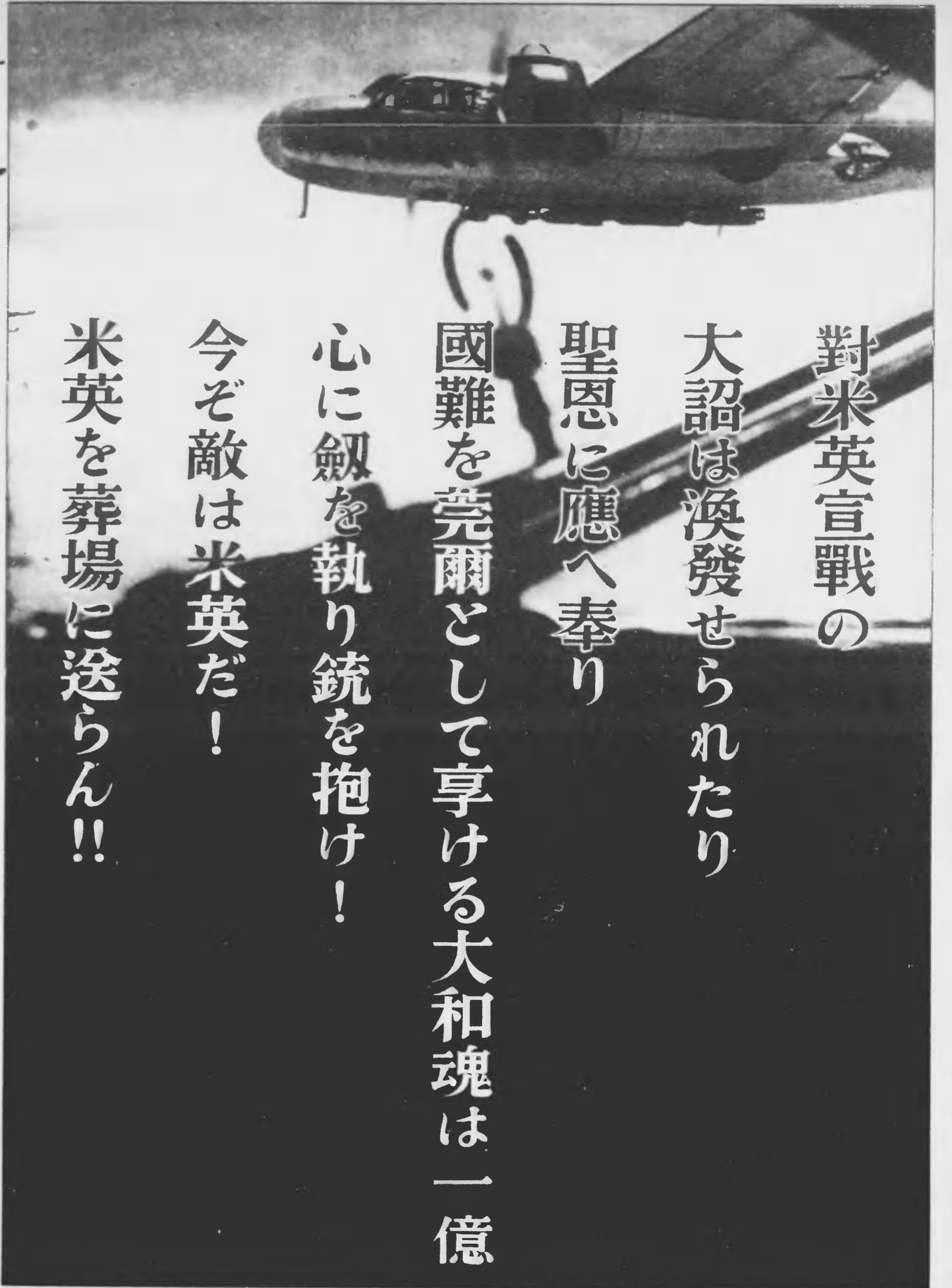
情 報 局 編 輯

二十 月 七 日 第 九 百 九 十 七 號

真 實 週 報

一 億、今 ぞ 敵 は 米 英 だ！





對米英宣戰の

大詔は渙發せられたり

聖恩に應へ奉り

國難を莞爾として享ける大和魂は一億

心に劔を執り銃を抱け!

今ぞ敵は米英だ!

米英を葬場に送らん!!

山本聯合艦隊司令長官艦艙を率ゐて起つ



詔書は渙發せられ、米英に對する宣戰は布告された。忍自重東亞の平和を念願してきたわが正義を暴戾にも踏み破つた米英に斷乎下したわが陸海軍の緊密な電撃的共同作戦は西太平洋の米領諸島及南太平洋英領シンガポール、佛印泰國境、香港等廣大な範圍に亘つて行はれ、わが忠勇なる決死の陸海軍部隊によつて戦果は着々と擧げられてゐる。すなはち昭和十六年十二月八日午前六時「帝國陸海軍は本八日未明西太平洋において米英軍と戰闘状態に入れり」の大本營陸海軍部發表に次いで「マレー半島の奇襲敵前上陸作戦の敢行」及び「ハワイ方面の米艦隊並に航空兵力に對する大奇襲作戦の成功」『上海における英砲艦ベテレル號撃沈、米砲艦ウエーク號の捕獲』『シンガポール、ダヴァオ、ウエーク、グアム、ミッドウェイなどの敵軍事施設の爆撃』等々正に閃電の進撃は陸に海に續けられ、將兵の意氣はすこぶるさかんである。すでに太平洋を斷じて護る決死のわが海の艦隊は萬里の波濤を蹴たて、帝國の自存自衛のため斷然起つて一切の障礙を破碎しつゝあり

撮影 海軍省

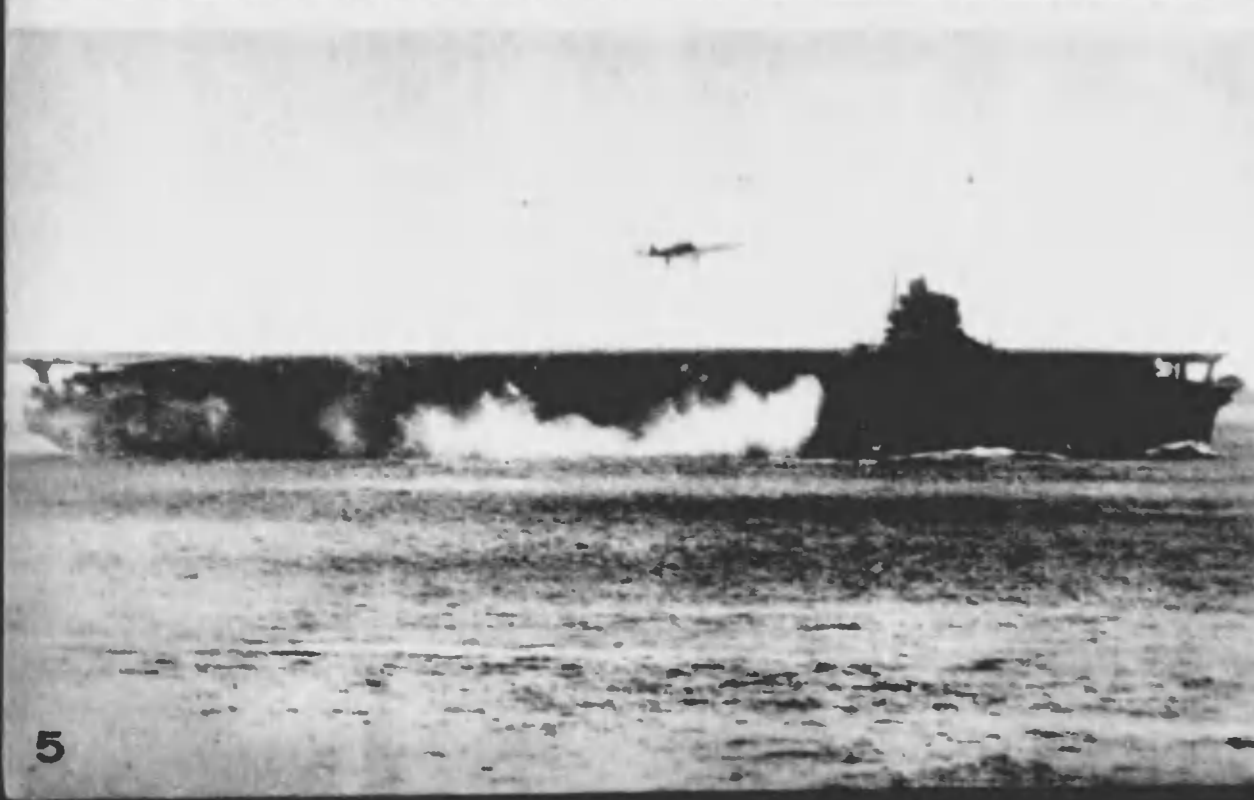
火砲は西太平洋 洋上にも開かされた



□ 空に火を吐く二脚架の艦上高角砲
撮影 海軍省



□ 太平洋上何處へわが潜水艦隊必勝の進撃振り
□ 戦艦の互砲火を吐く日は遂に来た。戦艦の主砲射撃は休みなく続く...



□ 敢然！水雷戦隊の猛攻である。煙幕に身を包み、挺身の一瞬
□ ハワイ、ミッドウェイさては米本土の空襲は必然的である。移動する飛行場。わが航空母艦の威容、いまぞ爆撃に飛びたつわが海軍



米勢力は上海から駆逐せられん

上海よさやうなら...
マリンの退却によつて國際都市上海が生れ更るのだ...
撮影 支那派遣軍報道部



日米合談の行進みと共に、切迫した東亞の危急が色濃く傳へられ始めた十一月下旬、アメリカ第四マリンは今日の事態を豫知せるかのやうに國際都市上海から退却して行つた。

蔣介石の第一次北伐の際締結された共同租界防備協定に基いて、アメリカ・マリンが上海に駐屯するやうになつてから既に十四年、その間アメリカ・マリンは米英權益の番犬として東亞の屈辱を表象して來た。そしてその屈辱が正に拂拭されやうとする數日前彼らはそぼふる雨に星條旗を濡しつゝ、東亞の天地から姿を消して行つたのだ。

しつぽを巻いて上海港から脱れ去つたアメリカ・マリンの姿は、歴史的な壯舉對米英宣戰の序曲を飾るものとしては餘りにも佻しかつた。



第四マリンの引揚船プレジデント・マチソン號



引揚げに當つて悲壯な訓辭を送るハワード第四マリン隊長



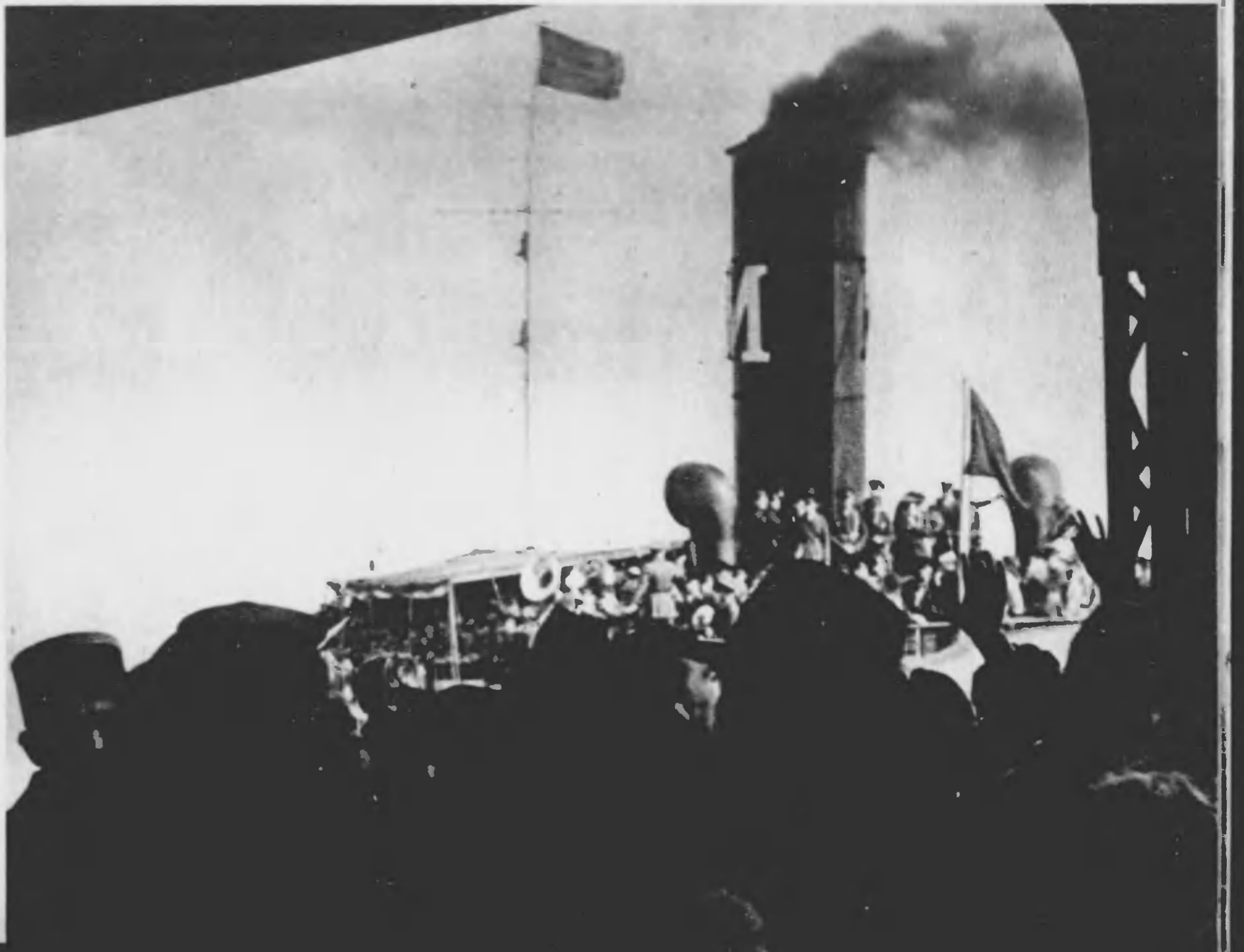
マリン引揚げ決定と同時に一日二十一組も集集結解式をあげたヤンキー娘や上海娘があつたといふが...

「オーイ！ここに忘れたおれの銃をとつてくれ！戦ひを忘れたやうなアメリカ水兵」





⇒ 碼頭では難民児童で編成されたフランス・バンドが雄雄曲になるとも知らず鼓の光を奏でてマリンの引揚げを送った



⇒ マリンの歴史的引揚げはマヂソン號で行はれた

米勢力は上海を離れて南京を占領

遂に至る米英撃滅の秋

征け 驕らず 臆せず 沈着に



「大詔を拜し奉りて」と題し、首相官邸から
週々の言をもつて國民に決意を促す東條首相

畏し宣戰の御詔
勅下る 赤子こ
そつて奮ひ起つ

遂に仇敵米英を打倒すべき秋
は来た。昭和十六年十一月八日、
この日こそ、日本國民の永久に
忘れ得ない日となつた。アジア
十億の民がアジアの運命決定の
日として、否アジアはかりでな
く、世界の人類が新しい歴史
史衛生の日として、永遠に記憶
すべき日となつた。

見よ、暴慢も反省の色なき
米英に、驟然起つて戦を宣する
や、陸海空の力が精銳は息もつ
がせず、果敢としてなき人平
洋の萬波を蹴つて敵軍事基地を
雪崩の如く襲ひ、併か旬日を
出ないで、既に敵を呑むの憤が

あるではないか。その壯絶、そ
の勇らしき、銃後にある一億國
民誰一人として奮ひ起たないも
のではないのだ。

畏くも宣戰の御詔勅を奉
あらせられ、朕ハ政府ヲシテ事
態ヲ平和ノ裡ニ回復セシメムト
シ隱忍久シキニ彌リタルモ彼ハ
毫モ交譲ノ精神ナク徒ニ時
局ノ解決ヲ遷延セシメテ此ノ間
却ツテ益々經濟上軍事上ノ脅威
ヲ増大シ以テ我ヲ屈從セシメ
ムトス斯ノ如クニシテ推移セム
カ東亞安定ニ關スル帝國積年ノ
努力ハ悉ク水泡ニ歸シ帝國ノ存
立亦正ニ危殆ニ瀕セリ事既、此
ニ至ル帝國ハ今ヤ自存自衛ノ爲
斷然起ツテ一切ノ障礙ヲ破砕
スルノ外ナキナリ」とのたまは
せられた。この大詔を下し給へ
る 上御一人の大御心のほど、

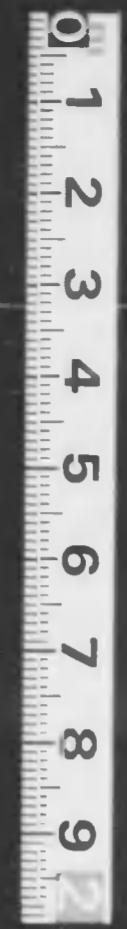
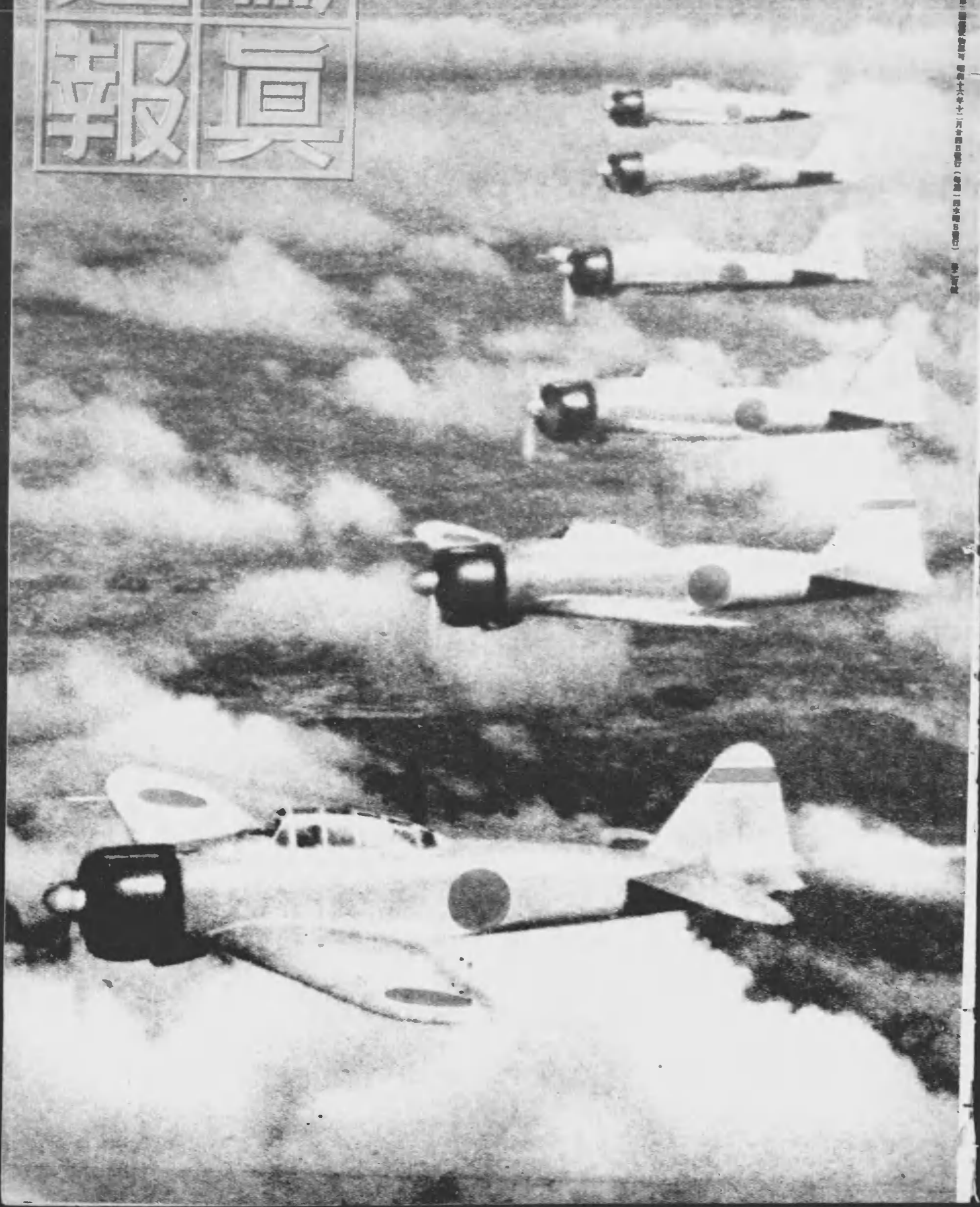
拜察し奉るだにわれらは渾心の
勇をふるつて聖慮に應へ奉るの
念を禁じ得ないのである。

東條首相は宣戰の御詔勅を
拜して「今宣戰の大詔を拜しま
して恐懼感激に堪へず、私不肖
なりといへども一身を捧げて決
死報國唯々宸極を安んじ奉らん
との念願のみであります。國民
諸君も己が身を顧みず、醜の
御稱たるの光榮を同じくせらる
るものと信ずるものでありま
す」と全國民に向つて切々と訴
へた。この要請に對して、もと
よりわれらはどんな僻陬の地に
あつても、既に心はその傘下に、
翕然として馳せ参じてゐる。熾
んなるかな、一大決戰の秋、わ
れらの烈々の氣魄は、今、天地
をどよもして、打倒敵性諸國の
多難なる道を決然暴進し始めた

多難なる道を決然暴進し始めた

週報寫眞

編輯局報情
二十二月廿四日・第二百七十一號



敵の巨艦を海底に！
 敵の領土に日の丸を！
 御稜威燦と輝く日
 酔つてはならない
 血走つてはならない
 敵機の來襲に
 生活の變動に
 根もない流言に
 ここにも日の丸を打ち立てるのだ
 感激には感謝と決意で應へるのだ



日 獨 伊 三 國 更 新
 協 定 強 化

情報局發表 (十二月十一日午後十一時)
 獨伊兩國は今般對米參戰に決し本十
 一日ベルリンにおいて帝國全權大島大
 使、ドイツ國全權リッペンントロップ外
 相並に伊國全權アルフイエリ大使の間
 に對米英戰の共同遂行、單獨不講和及
 び新秩序建設協力を内容とする左の如
 き日獨伊間協定調印せられたり。アメ
 リカ合衆國及び英國に對する共同の戰
 争が完遂せらるゝまでは干戈を收めざ
 るの確乎不動の決意を以て大日本帝國
 政府、ドイツ國政府及びイタリア國政
 府は左の諸規定を協定せり



谷情報局總裁の協定發表

協 定 全 文

- 第一條
- 第二條
- 第三條
- 第四條

日本國、ドイツ國及イタリア國はアメリカ合衆國及英國に依り強制せられたる戰爭を其の執り得る一切の強力手段を以て勝利に終る迄遂行すべし
 日本國、ドイツ國及イタリア國は相互の完全なる了解に依るに非ざればアメリカ合衆國及英國の何れとも休戦又は講和を爲さざるべきことを約す
 日本國、ドイツ國及イタリア國は戰爭を勝利を以て終結したる後に於ても亦千九百四十年九月二十七日其の締結したる三國條約の意義に於ける公正なる新秩序招來の爲最も密接に協力すべし
 本協定は署名と同時に實施せらるべく且千九百四十年九月二十七日の三國條約と同期間有效たるべし締約國は右有効期間の滿了前適當なる時期に於て爾後に於ける本協定第三條に規定せられたる協力の態様に付了解を遂ぐべし



曉天を引裂くハワイ真珠灣攻撃

十二月八日

十二月八日未明、航空母艦隊並に航空艦隊はハワイ真珠湾の大空襲を執行し、大なる戦果を収めたり。

破大隻四約艦洋巡型大 破大隻四艦戦 他に飛機行機多敷を撃破せり

沈没三のナゾリア アニジアヴトスエウ マホラクオ艦戦米 — 果 戦

繪 畫 師



↑ 敵國旗星條旗は今どわが手に...
バンドに立ち並ぶ豪壯な敵國權益
も今ど破壊の日がきたのだ



⇨ 星條旗が下ろされて軍艦旗がす
るするあがる。あつけない降伏
したアメリカ海軍のだらしないさ

海上に 血を祭る



↑ 拿捕した米砲艦ウエーリ
ック、今は多良と命名さ
れ帝國海軍に編入された

十二月八日未明突如地軸を揺
がす巨砲の轟きが上海五百万市
民の夢を破った。わが國が米英
と戦争状態に入るや古賀支那方
面艦隊司令長官は上海在港の英
ペトレル、米ウエック兩砲艦に
對して、軍使を派遣、降伏を勸
告したが英艦はこれを拒絶した
ので直ちにこれを撃沈、米艦は
あへなく降伏した

かくて上海に残存して支
那事變完遂の癆となつてゐた米
英敵性のシンボルをまづ最初の
血祭りにあげたわが海軍は更に
この日の午前陸隊を以つて早
くもバンド、南京路を中心とす
る元英國警備區域B區を、陸軍
部隊は他の租界の重要地點を
夫々占據、こゝに約百年の間米
英の東亞侵略の根據地として、
或ひは重慶側の抗日前衛據點と

に

撮影 支那方面艦隊報道部

して根強く敵性を發揮した上海
共同租界も一舉にしてわが鐵槌
をうけ米英及び重慶側の敵性は
完全に壊滅してしまつた

⇨ 支那を搾取して米英のドル箱となり、重慶側の輸血機關となつてゐ
た香港上海銀行も遂にわが海軍陸戦隊に占領された



⇨ 砲雷をつんざく轟音一發、わが降伏勧告を拒絶した
英艦ペトレル號はわが砲撃によつて忽ち撃沈された



九江に立ち並ぶアメリカ管理の倉庫には煙霧がでかくと
 塗られていた。わが軍は第三回の掃蕩を興へぬやうに
 努力したのにアメリカ側は車にもその米糧を盗いた雲の
 影から遠く支那軍に掃蕩をさせたのだ



九江の米商石油倉庫、その壁には米糧が貯蔵され、現地の
 兵隊は「米糧を許可ナク抽出及出入スルモノハ軍需ニ依リ
 第三ス」旨を明記してあり、敵性國の掃蕩と知りながら
 もかくまで保護にあたつてゐた



上海の戦時、四行倉庫に米糧を貯蔵する。日本軍は
 倉庫に押し、英米軍は英米租界の入口にバリケードを築い
 て日本軍の掃蕩を阻止してその敵性を遺憾なく暴露したも
 のだ



支那事變が上海に燃火した當時、皇軍がその攻
 撃に最も心を砕いたのは、英米の在長江沿岸權益に
 無益な損傷を興へないといふことだつた

上海へ行つたことのある人は誰しも、船が黄浦
 江へ入つてゆくと先づ驚くのは、目の前にひらけゆ
 く大都會が、英米の何處かの港ではないかと思はれ
 る程、支那兵がどこにもないことである。黄浦江兩
 岸の大きな建物、めぼしい工場、煙突等はすべて横
 文字が書かれユニオン・ジャック旗や星條旗がこ
 かしこわが物顔に翻つてゐる。敢へて支那らしさ
 を求めるならば、黄浦江の水が濁してゐること
 と、その上をあんぼのやうに漕ぎ歩くサンパン
 (支那獨特の小舟)ぐらゐるものである

上陸するとなほ更、ますます、以つて上海は支那
 ではない。支那人の密集地帯は街はづれの片隅に追
 はれて、目抜き通りの正に英米でありフランスで
 ある。このやうな都市をわが陸軍は包圍し、わが海
 軍陸戦隊は市街戦を敢行したのである

英米は今日あるを知らず、皇軍が出来るだけ戦
 を小範圍に止め、太平洋を平和のうちに置かうと、
 わが軍が不利な立場に立ち、損害をかうむつて迄も
 彼等の權益を避け、泣いて地固を踏んだことは枚
 擧に遑がない。こんな話がある――

その一つ、虹口日本人密集地帯は、開戦當初、毎
 夜支那軍が空襲してきた。日暮れになると嚴重な
 燈火管制だ。虹口は眞の間だつた。ところが蘇州河
 一つ距てた英租界はネオンも海々しく燦々と灯が
 ついてゐる。更けてくると無氣味な爆音、米國製の
 爆撃機に打ちまたがつた支那空軍が襲撃してくる。
 すると突然、海軍下士官集合所の傍にある英國水道
 會社の事務所が、煙々と電燈をつけ始めた。何をす
 るのだ。何たることだ。警備兵は驚愕してその門前
 に飛んでいつた。「消せ！早く！早く消せ！」と叫べ

と應答なく、人の氣配もない。誰かつけた奴がゐる
 筈だと門をたたくが、何の物音もない。空襲管制中
 たゞ一軒燈々とあかりのついた空家は、その反對の
 場合にはみられない異常な戦慄である。早くも敵機
 上海は敵たちの種地だぐらゐに思つてゐたアメリカ。ステ
 ン代用品に燃料をふり撒きメリケン兵に隠されて無言な支那
 人苦力は敵性軍需品を隠々陸揚げしてゐた



は頭上に来てゐる。一刻の餘裕もない。一秒も捨て
 置けない。遂に警備兵は銃のねらひを定めて路上
 から窓越しに電燈を次々に射撃していつた。漸く全
 部の電燈を撃ち消し得た時、何處かへ多数の爆音が
 落ちて炸裂した

その二つ、昭和十二年十月二十九日開北ボケット地
 帯に敵を追ひ込んだ。殲滅だ！と勇み立つたわが
 十師部隊の勇士は、敵がたてこもつた四行倉庫を三方

から包圍した。長方形のこの倉庫は蘇州河畔に建て
 られ、他の一面が英租界に面し、そこには英國を旗
 を二つこれ見よがしに押し立てた英陸戦隊がトーチ
 カの銃眼からこちらを睨んでゐる。倉庫からは南京
 豆、砂糖、小麦などの袋をバリケードとして頑強に
 抵抗してゐる。どうしても包圍陣形を布きたい、それ
 には蘇州河から攻撃しなければならぬ。そこで直
 ちに内火艇や砲艇に陸戦隊を満載してゲーデン・プ
 リツチの下から漕江していつた。四川路橋をくつ
 つて間もなくゆくと、これはどうしたことか、廣くな
 いこの川幅一面にジャンク(支那の荷舟)やサンパン
 が所狭しと森き合つてゐて、どうにも進めなくな
 つてしまつた。「どけ！どけ！」と呼ぶと「撃つぞ」と怒鳴れ
 ど一面に立ちふさがつて、めだかの泳ぐ大路もな
 い。ジャンクやサンパンのきたない支那人、おかみ
 さん、子供がたゞおけもわからぬわめき聲を擧げて
 ゐるのみ。すると先頭の艇に機銃を据えて頑張つて
 ゐた兵曹が突然ふり向きさまに必死の聲を擧げてき
 た。「分隊長殿、分隊長殿、イギリスの野郎だ、こん
 なことをしやがつたのは、イギリスの野郎でありま
 す。奴等がそれ！あそこにも！」見るとジャンクの
 こ、かしてに英陸戦隊が狼のやうに飛び交ひ、機
 銃をこちらに向け、銃剣を擬し、しかも兵曹の目の
 前には六尺にも餘らうと思はれる英兵が二人大手を
 あげて立ちふさがつてゐる。「分隊長殿！撃たして下
 さい。撃たして下さい」もう兵曹は引金に指をかけ
 て、こちらを向いて泣いてゐる。蒼白な双頬を熱涙
 がハラ／＼と落ちてゐる。分隊長は鉛を呑む思ひ。
 撃つことはたやすい。併し、こゝで英兵を血祭りに上
 げては、とはやる心を双眼鏡に握り据ゑ、總員引き
 返せと命が下つた。兵曹の涙は機銃に刻印された菊
 花の御紋章にハラ／＼と散つてゐた。この無念の涙
 が今頃毎夜までの全日本人の涙であつたのだ

ハワイ

てゐたのが、ハワイ諸島である。アメリカはその重要性を認め、既に一九〇五年から、このギターとフラ踊りで知られた夢の島ハワイを、鐵と油で要塞化してきた。アメリカが真珠灣軍港に投じた軍費は今日までで約一千億ドルに上るといはれてゐる。その主たる施設を述べると、戦艦用乾ドック二、同浮ドック一、艦艇用乾ドック一、同浮ドック一、同引揚船一、同浮ドック一、その他大砲庫、航空大工廠、大貯油施設等々で、三百五十隻の艦艇を收容しようといふ根據地計畫の雄大さには、驚嘆のほかほかはない。この外最近では真珠灣周邊の陸軍施設、例へばヒッカム飛行場及びブスコフィールド飛行場なども、飛行場の擴張、兵營の増築などに晝夜兼行の猛作業を續けてきた。かゝる雄大な海軍重要根據地が、一瞬にして大損害を蒙つたのである。今後懸命な再建並びに太平洋艦隊の増強などによつて、ハワイ諸島の軍事能力が復活されるやうなことがあつても、皇軍のグアム島占領、ウェーク島、ミッドウェー島の砲撃によつて、ハワイと極東を結ぶ線が破壊してゐるので、ハワイのアジアに対する威力は半減したとみてよい。

開戦劈頭、長編ハワイ真珠灣軍港を奇襲してアメリカ太平洋艦隊の主力並びに航空兵力の大部分を撃滅したのが海軍航空隊の偉功は、一瞬にして全世界を驚愕のどん底に叩き込み、露嘆の聲をあげしめたのであつた。ハワイ諸島は、アジアの第一根據地としてアメリカが、多くの年費と雄大な軍費を投じてその要塞化をはかつてきただけに、アメリカ朝野の受けた打撃は察するに餘りある。次に、わが海軍航空部隊が大東亞戰爭史に輝く第一頁を記録したハワイ諸島について簡単に述べてみよう。

はれるやうなことはきほめて少い。米國海軍の對アジア基地としてのハワイ諸島の重要性は、今更多くを要しない。北はアリューシャン群島の突端から東南に下つてアラスカ及びアメリカ本土の太平洋岸に出で、サンディゴからハワイの線に折れてミッドウェーを経て遠くオアフ島のスコフィールド飛行場、流石の國だけに朝夕兵艦への行き歸りにも下士兵卒まで自動車といふ豪華さ

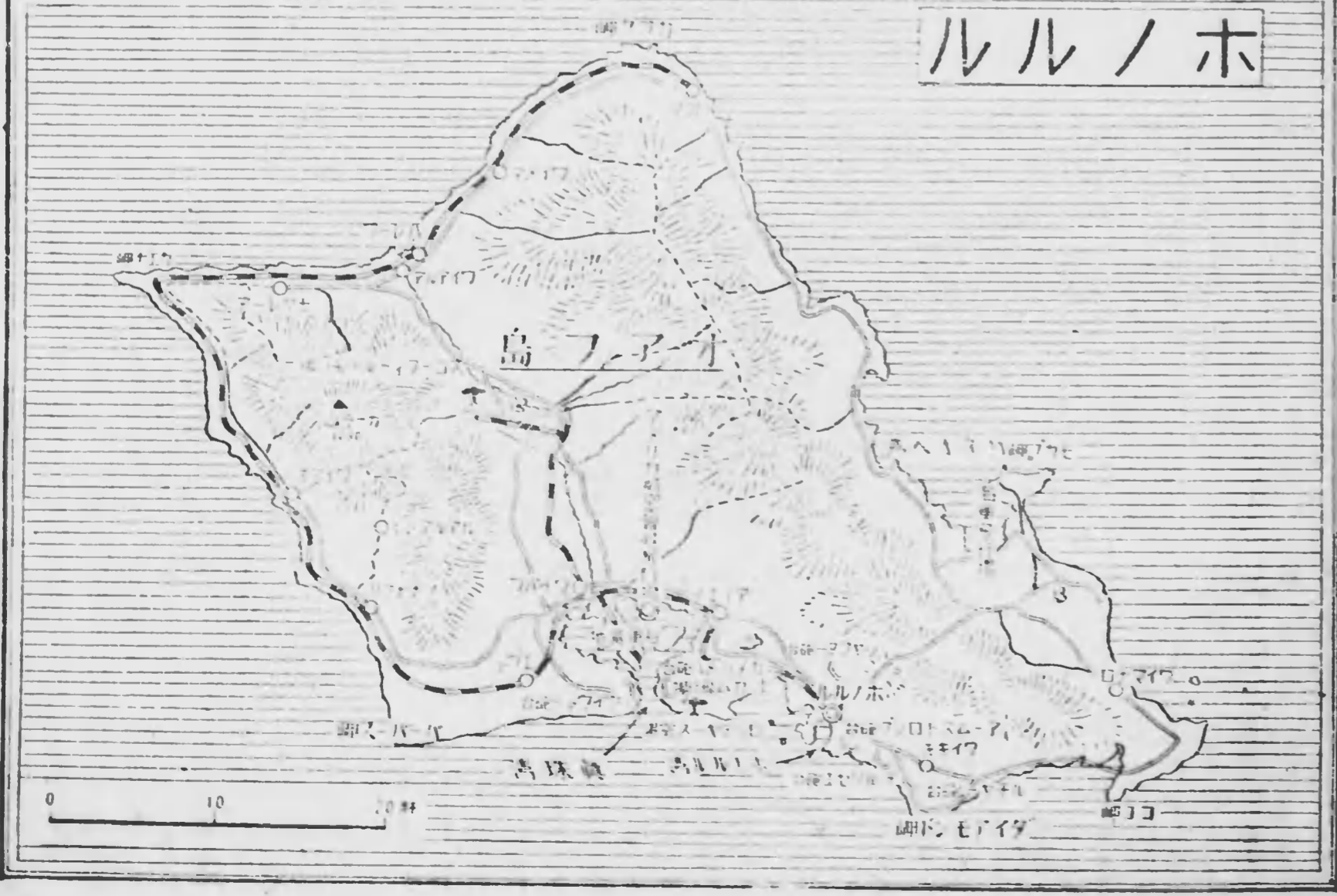
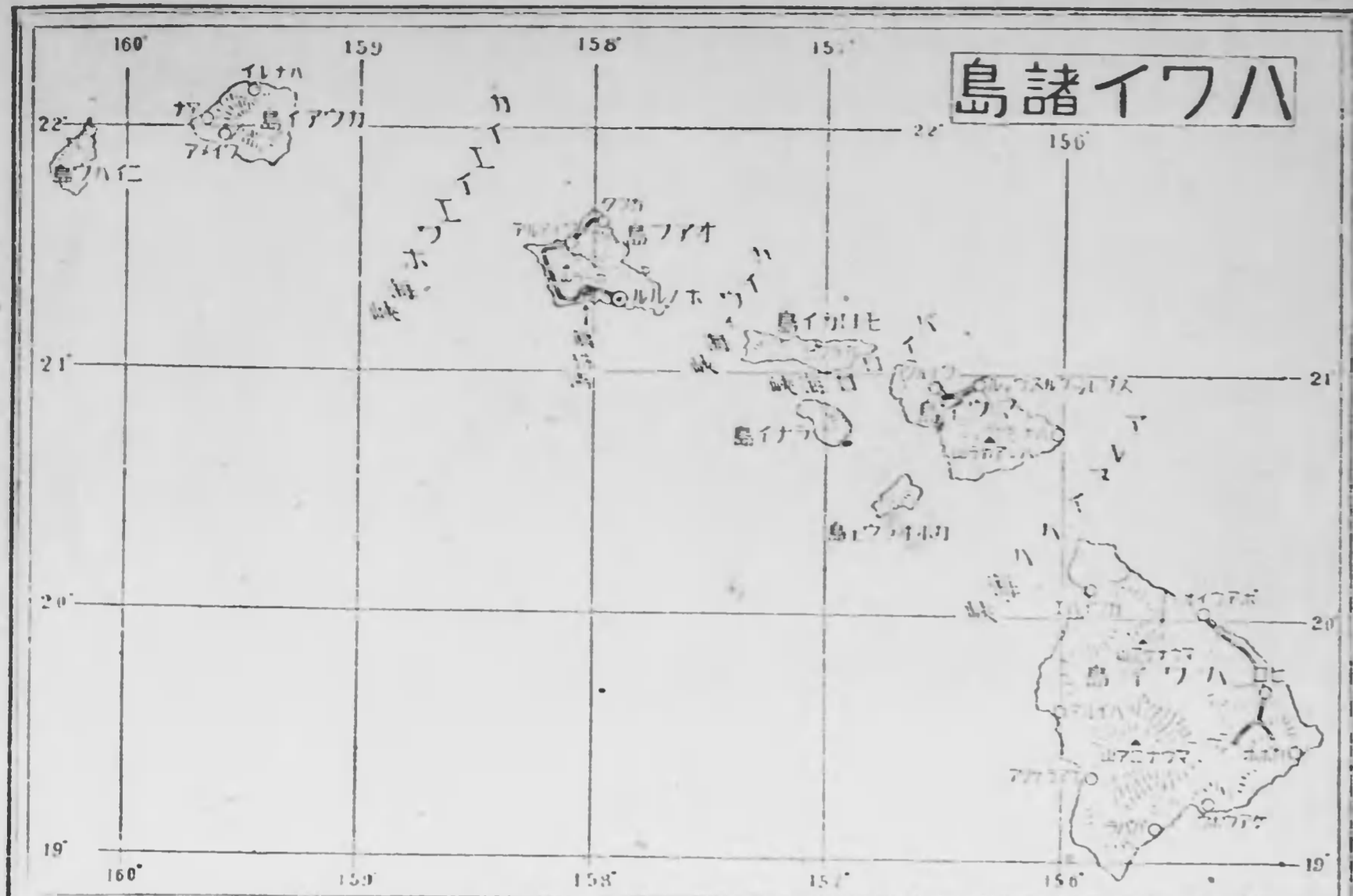


大げにハワイに在る同胞について一言すれば、現在ハワイ人口約四十二万三千のうち、その三分の一約十五万はわが同胞で、残りの約二十七万は、ハワイ島の先住民といはれてゐるマウイ、モロカイ、オアフ、カウアイ、モロカイ島などの所謂ハワイ八島で、その他は無人の小島である。中心をなすのがオアフ島で、首都ホノルル、更に問題の真珠灣軍港はこの島の西岸に位置してゐる。四季を通じて貿易風が全島を吹き、氣候の温暖なことは世界でも有名であり、しかも颶風に襲

る。わが國のハワイ移民はわが移民史上でも最も古いもので、既に明治元年にハワイ島の甘蔗園労働者として雇はれて彼の地に渡航してゐる。その後集團移民は一時中絶したが、明治十八年以後再びいはゆる官約移民として續々渡航するものが多く、明治三十一年即ち一八九八年ハワイがアメリカに合併されるまで續いた。明治四十一年日米間に紳士條約が結ばれ、日本移民のハワイ渡航は阻止されてしまつたが、これは日本移民の經濟的地位向上を未然に抑へようとしたものといはれてゐる。現生一世約五万は主として農業に従事し、漁業その他一般商社の經營に當つてゐる。二世は主として合社員として、銀行、商社等に進出してゐるが、何れもその社會的地位は殘念ながら餘り高くないといはれない。一世は日本人商業會議所、並びに日本人協會、また二世はハワイ日系市民協會等を中心として、ハワイにおけるわが同胞間の親睦を深め、その社會的地位の向上に努力してきた。

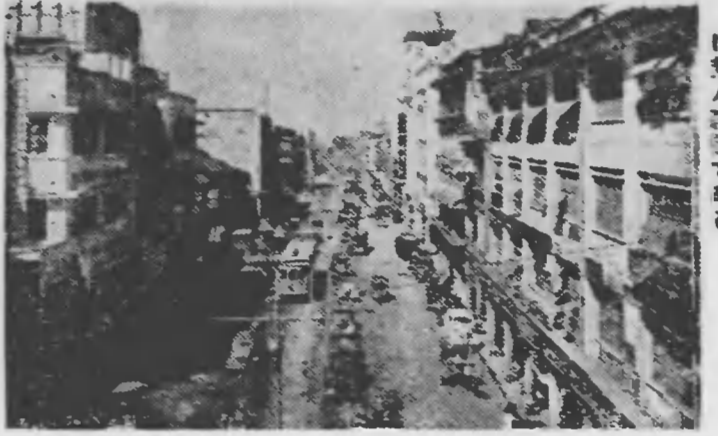
支那事變勃發以來、在ハワイ同胞が母國に寄せた愛國心の現はれは、枚擧げに遑がない。だが彼らは徒らに安んじて在るハワイの中華民衆人と事をかまへることなどの極事を慎重に避け、専ら母國の勝利を信じて海外同胞の面目を保つてきた。ハワイ今日の隆昌は、實にわが在ハワイ同胞が血と汗で作られたるもので、その産業の中樞をなしてゐる甘蔗、パイナップル、コーヒー栽培等の農業は、わが同胞のたゆみない勤勞によつてはじめて今日の大をなし得たものである。遠く母國を離れ、異國人の間に交つてハワイ開發の偉業に参加してきた同胞の勞苦は、洵に多大なものであつたらうと思はれる。

十二月八日未明、日の丸旗かな銀翼を揮かしてホノルル上空を颯々とするわが爆撃機を仰いで、同胞の感情にはも如何なるものがあつたであらうか。



フィリピン

僅か半月程前まで、アメリカが東亞環礁の中樞的軍事基地として恃んだフィリピンは、今や四方八方から皇軍の手痛い攻撃を受けて、次第に網中の魚と化さうとしてゐます。過去四十二年、米人の軍閥に苦しんだフィリピンが、漸く民族共榮の旗の下に生れ變る日が近づいたわけでは、この機會にフィリピンとはどんな事か、そのありのままの姿について、過去十年フィリピン人に正しい日本を認識させようとする野望を、フィリピン・ジャパン社社長野澤恒氏に訊いてみます。



B-77型機が若干ありました。とても皇軍に太刀打ちできる勢力でなく、ご承知の通り一番信頼をかけた空軍は、一週間あまりのマニラ市の目黒通りリサル・アヴェニュー。この通りの店舗の三分の一は無人状態である。

(問) フィリピンの米軍東軍も初めて皇軍の實力を知つたでせう
(答) 全くその通りです。フィリピンの民衆は完全にアメリカの宣傳に乗せられてゐて、日本は力がない、フィリピンまで攻めて來ることは絶対にないと信じてゐたのですから愕然としたに違ひありません。

戦争で早くも三百機近く撃破されましたから、激減も当然です。陸軍にしたところで、米兵は多少戦意がありまゝで、土人兵とをこゝと、職業兵もゐるにはゐますが、大部分は徴兵後五ヶ月半の教育を受けた連中に過ぎない連中で、厳密には兵士と言へません。

(問) なぜ土人兵は戦意がない
(答) 戦前の日本人の活動ほど

のですか
(答) 元來フィリピン人はまだ民族的自覺が少く、従つてしつかりとした國民精神ができてゐりません。その上、米人等は口でこそ美言はしてゐますが、フィリピン人に對しては先天的に人的偏見を持つてゐて、商賣などで金儲けをするときは、一緒にやつても、社会的には見下した態度をとつてゐました。ですからたうていアメリカのために生命を賭して戦ふやうな熱意はないと思ひます。



マニラは貴重な運用品であり、その大部分は、オオから糖人の手によつて輸出されてゐた。ミンダナオの麻糖工場。

農業は目下皇軍の猛攻下にあるダヴァオが中心です。こゝは明治三十七年頃から日本人が營々として開拓し、今では十數万町歩の

沃野が開け、フィリピンの最重要産物である麻が生産されます。日本人の投資は大よそ一億五千万の巨額に達し、約五万人のフィリピン労働者を使つてゐるといふ豪勢さで、文字通りダヴァオは日本人の造つた町です。従つてダヴァオ州の租税の八割は日本人が負擔してゐるのですから偉いものです。

邦人小賣業はフィリピン全體で約六百軒あります。これは比島全小賣業の二割五分乃至三割に相當してゐます。また製材も森林の代探権を持つてゐる日本人商社は直營三、準直營、買材等十數社に上り、フィリピンの木材輸出事業の八割を左右してゐます。このほか鑛業、工業方面の進出は比較的近年ですが、だん／＼盛大となつてゐました。

要するにフィリピンにおける日本人は御多聞に漏れず、アメリカの不當な壓迫に抗しながらよく戦つて、以上のやうな権益を作りあげました。特に事變以來、移民問題、土地問題、輸出許可制等に悩まされながら、黙々として地盤を守り續けた努力は漢くましいものがあります。彼等の権益は戦争勃發によつて殘念ながら没收の憂目を見たものがあるかも知れませんが、しかしそれも一時のことです、やがて彼等が本當に大手を振つてフィリピン再生に盡す日もさう遠くはありますまい。



マレー

過去一世紀以上にわたつて、アジアを蔽ひアジアを窒息せしめようとして、あつた英米勢力の最も大きな背景をなしてきたものは、軍事據點シンガポールを擁し、オーストラリア、蘭印等と共に東亞の南門を扼する位置にある英領マレーの存在であつた。今、東亞の共榮を目指してこれら英米勢力の根柢を破砕しようとして起つた皇軍の猛攻がこの地域に集中されてゐることはいふまでもないこと、既に中北支の權益ごとくを失ひ、香港の陥落も目撃にせまつたイギリスとしては、こゝを東洋最後の據點として死守せんとしてゐることもいふまでもない。

さてこの英領マレーとはどんなところであらうか。まづ面積はわが九州、四國、北海道を併せた位あり、政治的にはシンガポール島をはじめピナン地方



マラッカ地方のマレー半島三要點、クリスマス島、ス島等の英國王の直轄に属する海峡植民地と、セラシール、ベラク、ネグリセンプラン、パハンの四回教士侯州から成るマレー諸州聯邦、ジョホール、ケランタン、トレンガヌ、ケダ、ペリスの五州からなる非聯邦諸州を統合したもので南北の距離は百三十里位である。人口は五百三十九万六千人餘で、人種別にみると支那人二百三十万を筆頭に、マレー人二百二十六万、インド人七十四万餘その他が十万余となつてをり華僑の地位は確立され、その後経済的開發がすすむにしたがひ、益々重要性を加へ遂に今日の地位を占めるに至つたのである。現今英領マレーが世界に誇るものは何といつても、その特産物たるゴムと錫であらう。先づゴムは一年三十六万一千四百八十四噸（一九三九年）世界生産高の四割一分を産出し輸出量は總額五十五万三千噸、金額にして三億七千万海峽幣（邦貨約二億）、このうちアメリカだけで輸出量の大半約三十万噸に達してをり、錫は總額五百五十萬噸（一九三九年）世界全産額の三割を出し、輸出量は八万二千噸、金額にして一億五千八百萬海峽幣、このうちアメリカだけで五万六千噸を買つてゐる。これらの莫大な輸出額は今次の大戦にあつて世界一の産金地南河聯邦の金とともに英戦費の最大源泉となつてゐるのである。

さらにこれに林産、穀類等を加へた輸出額は七億二千三百萬海



峽に達し、對外貿易額も自治領諸國インドを除いた英聯邦内全部の貿易額よりも多いのである。ここに英領マレーが戦時上ばかりシンガポール島と對岸マレー半島のシンガポールはこのシンガポールに接してつながれてゐる。これはわが國のシリシヤガボル島とは異なり、陸続きでマレー半島の端はすべて海にそなへて雄略が仕掛けられてゐる。

この地にヨーロッパ諸國の置かれたのは一五一一年ポルトガル人のマラッカ占領に始まり一八一九年サー・スタンフォード・ラフスによつて英國植民地が建設される迄つゞいたが、その後一八六七年（明治六年）海峡植民地が結成されるとともに、マレー半島におけるイギリスの地位は確立され、その後経済的開發がすすむにしたがひ、益々重要性を加へ遂に今日の地位を占めるに至つたのである。現今英領マレーが世界に誇るものは何といつても、その特産物たるゴムと錫であらう。先づゴムは一年三十六万一千四百八十四噸（一九三九年）世界生産高の四割一分を産出し輸出量は總額五十五万三千噸、金額にして三億七千万海峽幣（邦貨約二億）、このうちアメリカだけで輸出量の大半約三十万噸に達してをり、錫は總額五百五十萬噸（一九三九年）世界全産額の三割を出し、輸出量は八万二千噸、金額にして一億五千八百萬海峽幣、このうちアメリカだけで五万六千噸を買つてゐる。これらの莫大な輸出額は今次の大戦にあつて世界一の産金地南河聯邦の金とともに英戦費の最大源泉となつてゐるのである。

わが日本人によつて開拓されたこの地の産業資源は、ケランタン、クワンタン地方の錫、産物、ジョホール一帯の廣大なゴム園であるがこれらがやがて東亞共榮の資源となる日も近いことであらう。いな全マレーの民族がアジア共榮の喜びをともにする時が必ず近いことを信じて戦ひ抜かう。いま皇軍の將兵はこの地のジャングルをくり破り、雨と戦ひながら戦果を擴大しつゝあるのだ。

